

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	78	実施計画番号	9
事務事業名	下水道の整備	事業開始年度	昭和47年
担当課名	管理課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市下水道条例、十和田市下水道整備基本計画	関連事務事業	
背景や経緯等	十和田市の下水道整備は、昭和47年度に都市計画決定を受け公共下水道事業に着手したことに始まり、その後、農業集落排水事業及び小規模集合排水処理施設整備事業等を実施しております。現在は公共下水道事業及び浄化槽整備事業を行っております。		
事務事業の目的	公衆衛生の向上を通じて快適な住環境の整備と、湖沼や河川などの公共用水域の水質保全を図る。		
実施状況	公共下水道事業(上平地区・下平地区等) 集合処理区域以外における浄化槽整備事業:37基		

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	13	15	15
	活動日数(日)	243	244	244
	人件費(千円)	113,724	131,760	131,760
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	2	2	1
	活動日数(日)	222	222	222
	人件費(千円)	1,732	1,790	972

【事業費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)		430,647	442,426	576,344
うち一般財源				971
うち国県支出金		181,717	179,490	219,958
うち地方債		211,600	236,200	335,300
うちその他		37,330	26,736	20,115

【指標】

活動指標	活動指標名①	水洗化率				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	水洗化人口/人口	%	71.3	72.8	73.0	
	活動指標名②	浄化槽設置基数(年間目標)				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	浄化槽設置基数	基	40	37	35	
成果指標	成果指標名①	水洗化率				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	水洗化人口/人口	%	目標値	72.0	72.0	73.0
			実績値	71.3	72.8	
			達成度(%)	99%	101%	
	成果指標名②	浄化槽設置基数(年間目標)				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	浄化槽設置基数	基	目標値	40	40	35
			実績値	40	37	
達成度(%)			100%	93%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	78
計画No	9

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 下水道の整備は、公衆衛生の向上及び、湖沼や河川などの公共用水域の水質保全を図るものであり、下水道法上からも市町村が行わなければならないものとなっています。また、未整備地域からの整備要望が高い状況にあります。 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	下水道の整備は、公衆衛生の向上及び、湖沼や河川などの公共用水域の水質保全を図るものであり、下水道法上からも市町村が行わなければならないものとなっています。また、未整備地域からの整備要望が高い状況にあります。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
下水道の整備は、公衆衛生の向上及び、湖沼や河川などの公共用水域の水質保全を図るものであり、下水道法上からも市町村が行わなければならないものとなっています。また、未整備地域からの整備要望が高い状況にあります。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 計画的な事業の実施を通じて、水洗化率も目標どおり向上しています。また、集合処理区域以外における水洗化の向上を目的とした浄化槽整備事業も、年間設置目標の40基をほぼ達成しています。 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	計画的な事業の実施を通じて、水洗化率も目標どおり向上しています。また、集合処理区域以外における水洗化の向上を目的とした浄化槽整備事業も、年間設置目標の40基をほぼ達成しています。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	計画的な事業の実施を通じて、水洗化率も目標どおり向上しています。また、集合処理区域以外における水洗化の向上を目的とした浄化槽整備事業も、年間設置目標の40基をほぼ達成しています。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> コスト面において効率的である個別処理(浄化槽整備事業)を集合処理(公共下水道事業)と併用することにより、コスト削減に努めています。 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	コスト面において効率的である個別処理(浄化槽整備事業)を集合処理(公共下水道事業)と併用することにより、コスト削減に努めています。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	コスト面において効率的である個別処理(浄化槽整備事業)を集合処理(公共下水道事業)と併用することにより、コスト削減に努めています。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 供用開始区域の受益者から受益者負担金を徴収しています。しかしながら、事業種別により負担金額の格差があり、格差是正が必要と思われます。具体的には、農業集落排水整備事業に対して浄化槽整備事業の負担金が割高となっています。 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	供用開始区域の受益者から受益者負担金を徴収しています。しかしながら、事業種別により負担金額の格差があり、格差是正が必要と思われます。具体的には、農業集落排水整備事業に対して浄化槽整備事業の負担金が割高となっています。	
	受益者負担適正化の余地	1 / 4								
供用開始区域の受益者から受益者負担金を徴収しています。しかしながら、事業種別により負担金額の格差があり、格差是正が必要と思われます。具体的には、農業集落排水整備事業に対して浄化槽整備事業の負担金が割高となっています。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由 十和田市下水道整備基本計画に基づき継続的に事業を実施する。 浄化槽整備事業は、集合処理区域以外における有効かつ効率的な整備手法であることから、今後も重点的に整備を推進する。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 公共下水道事業については、十和田市下水道整備基本計画に基づいた進捗管理を徹底する。 浄化槽整備事業においては、単独助成事業の活用を通じて目標設置基数を達成する。